

【教育問題委員レポート】

茨城県PTA振興大会講演 「親子で確認 防災のいろは」

～教育問題委員として感じたこと～

はじめに

今年度の茨城県PTA振興大会は、防災をテーマに、先に豪雨による未曾有の被害を受けた常総市での開催を予定しておりましたが、まだ新型コロナウイルス感染についての心配があることから、講師の増田 和順先生には別会場にて講演をいただき、オンデマンド配信に切り替えることといたしました。さらに、それと並行して講演の概要を教育問題委員会にてレポートし、皆様にお伝えすることといたしました。

増田先生は、防災について伝えたいことを全て話すには90分を12コマでも足りないとおっしゃっていましたが、大切なところを厳選して話してくださいました。

「災害とは何か」に始まり、その恐ろしさや備える上で大切なことをお話いただきましたが、その中で教育問題につながることもたくさん感じられましたのでほんの一部をご紹介しますと思います。



災害時のスマホの大切さを親子で確認する。

増田先生は災害にあってしまった時の、「スマホ最強説」を唱えておられました。家族との連絡、救援要請、情報収集はもちろん、懐中電灯にもなり、使い次第で非常に便利な道具であると。私たちにとって、子どもたちの日常におけるスマホとの向き合い方はS

NSトラブルやいじめへの発展など、今や大きな教育問題となっています。災害時のスマホの大切さを親子で確認することは、スマホ本来の正しい使い方をともに見つめなおす機会になるのではないのでしょうか。

日頃から子どもとの会話を大切に

災害は、誰にでも降りかかる恐れがあります。万が一被害にあってしまったとき、人は自らを助け、また家族と共に助け合う必要があります。この「自助」の精神は非常時だからといって生まれるものではないとのお話がありました。日頃から私たちが子どもとの会話を大切にし、お互いを理解し、敬う気持ちを持つことが必要なのだと強く感じました。



PTAも「共助」の一つとなれるよう

このように誰にでも必要な「災害への備え」の大切さを通じて、私たちが日常において感じている教育問題を見つめなおす機会を得ることができました。と同時に、防災の面では、家庭に潜む（普段は気づかない）問題を共有し、一緒に取り組むことで「自助」に加えて、PTAも「共助」の一つにもなれると感じました。これからも創意工夫をもって活動してまいります。なお、内容の詳細は、動画をご覧ください。

記録 令和3年度 教育問題委員 須藤 隆之